

( 体育科 )

仲間と力を合わせながら、運動の楽しさや喜びを味わう子どもを育てる

ーゲーム・ボール運動を通してー

大阪 市立中本小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、以前より独自の冊子「なかもと☆キッズ」を活用し、意欲的に体力向上に取り組もうとする態度を高めることに取り組んできた。また「外で遊ぶデー」「かけあしタイム」「なわとび週間」など、体を動かす機会を教育活動にも取り入れ、運動に好きと答える児童は常に9割程度であった。そんな中、令和元年度から2年間、校舎建設で運動場が使用できなくなった。そのために様々な手立てをとった結果、運動に対する意識には変化がなかったが、外遊びなどの機会が減ったことや、児童のけがが増えるなどの様子が見られた。1年目は「体づくり運動」の領域を通して、様々な基本的な体の動きを身につけ、運動の楽しさや心地よさを実感し、将来にわたって運動を楽しむことができる子どもを育成することを目指し取り組んだ

昨年度からは集団での活動が中心で、交流がより活発に実施されるゲーム・ボール運動を研究領域とした。よりよい動きであったり、ゲームのルールや作戦を相談したりチームで協力しながら攻めたり守ったりする中で、友だちとふれ合い、意欲を高め合いながら運動を楽しむ児童を育てたいと考え、主題を「仲間と力を合わせながら、運動の楽しさや喜びを味わう児童を育てる」と設定し、研究を進めることとした。

## 2. 研究の趣旨

昨年度末の学校児童アンケートにおいて「体を動かすことや運動することが好きですか」の項目で肯定的な回答が前年度より2.5%増加し、94.7%と増加した。特に中学年で5.2%、高学年でも6.8%の伸びが見られたことは、大きな成果であった。

研究を進めていく中で、学習中の児童同士の「学び合い」の時間が効果的であることが見て取れた。優しくアドバイスをしたり、友だちの動きを取り入れたりしたことが、それぞれの児童の動きの変化や意欲の向上に直結していたのである。それは、本校の児童の強みでもある素直さが学習活動で発揮されたとも考えられ、コロナ禍で配慮せざるを得なかった児童相互の交流に力点を置くことの可能性を感じ下記の視点で研究を進めてきた。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

### 視点① 「教えること」「気づかせること」の明確化

限られた授業時間の中で、児童が動きを習得し仲間とともに活動する時間を確保することが大切であると考え。指導者が事前に「教えること」「気づかせること」を計画・準備し、授業時間において的確な指示・発問・声かけをすることで、学びの充実につなげる。

### 視点② 交流時間の工夫(場・方法・時間・回数)

授業時間内には、基本的な動きを練習する、ゲームを楽しくする工夫や規則を相談する、作戦を練る、振り返りを行うなど、さまざまな場面での交流時間が想定される。児童の実態に応じて、いつ・どのように・どのくらい行うことが効果的であるかを想定し、実施する。

### 視点③ 可視化・振り返りの効果を高める工夫

- ・掲示物・ワークシート・ホワイトボード等の活用
- ・その時間に合っためあてと焦点化した振り返り

体づくり運動の研究においても「今何をするのか」「どこに気をつけたらよいか」「自分がどこをがんばったか」等が目に見えることは、様々な特性をもつ児童や、運動に苦手意識をもつ児童も楽しみながら主体的に活動することに効果的であった。ワークシート等を活用し、めあてや振り返りを工夫することで、分かりやすく楽しい授業を目指す。ICT 機器の使用については、機器の特性に合わせ、効果的な場面で活用できるようにする。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- ①「教えること」「気づかせること」の明確化
  - ・学習前における児童の実態や既習事項の把握
  - ・「教えること」の明確化・・・ポイントを絞る よい動きにつながる言葉の共有
  - ・「気づかせること」への工夫・・・可視化 児童同士の評価 審判の体験
  - ・学習過程での柔軟な支援・援助・・・練習内容の追加 動画の活用 声かけ等
- ②交流時間の工夫（場・方法・時間・回数）
  - ・試合前・・・本時の自分たちのめあての確認
  - ・試合途中・・・めあての確認 作戦の調整 具体物（ホワイトボード・磁石）
  - ・音楽の活用による十分な運動量の確保
- ③可視化・振り返りの効果を高める工夫
  - ・掲示物・・・いつ・何をするか 何を意識するかが明確に
  - ・動画・・・イメージづくり 目指すものの共有化
  - ・ワークシート・・・分かりやすいイラスト 明確な項立て 評価方法の工夫
  - ・ホワイトボード・・・具体的な動きをイメージ
- ④その時間に合っためあてと焦点化した振り返り
  - ・児童の実態に沿っためあて・動作化・言語化・・・大切なことの共通理解
  - ・ワークシートの工夫・・・短時間で活発な話し合いに
  - ・相手チームのよかったところにも着目・・・自分も取り入れようとする意欲

### (2) 今後の課題

- 指導案・教具等の保存による指導の充実とその継続
- 6年間の積み重ねを意識した指導方法の共有
- 運動に苦手意識をもつ児童等へのより効果的な指導の探究